

環境経済論特講Ⅱ

選択 2単位

寺西 俊一

1. 授業の概要(ねらい)

この「環境経済学特講Ⅱ」(秋期)では、春期に引き続いて、担当者(寺西)による「環境経済学Ⅱ」の講義で概説する「環境保全の経済理論」(①汚染防止のための経済理論、②自然保護のための経済理論、③アメニティ保全のための経済理論)に関連する重要な最新トピックスも取り上げながら、とくに②自然保護のための経済理論、および、③アメニティ保全のための経済理論に焦点を絞って、より専門的な内容に踏み込んだ講義を行います。

2. 授業の到達目標

本講義の履修者が、「環境保全の経済理論」(①汚染防止のための経済理論、②自然保護のための経済理論、③アメニティ保全のための経済理論)の体系について基本的な理解をもち、さらに環境経済学における理論と政策(秋期では、とくに「自然保護のための理論と政策」および「アメニティ保全のための理論と政策」)について、より専門的な知識を得ていただくことを到達目標とします。

3. 成績評価の方法および基準

平常点(30%)、中間レポート課題の提出(30%)、最終期末試験(40%)とし、総合的に評価します。講義中に参考文献、準備学習の課題等について指示します。毎回の講義への継続的な出席を重視します。

4. 教科書・参考文献

教科書

特定のテキストは使いません。授業中にプリントを配布し、適宜、主な参考文献などを指示します。基本的な参考文献として、以下のものを挙げておきます。

参考文献

都留重人著 『公害の政治経済学』(岩波書店)
宮本憲一著 『環境経済学新版』(岩波書店)
植田和弘・落合仁司・北畠能房・寺西俊一共著 『環境経済学』(有斐閣)
寺西俊一編 『新しい環境経済政策—サステナブル・エコノミーへの道』
環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』(有斐閣)
『環境と公害』誌掲載の諸論文 (岩波書店)

5. 準備学習の内容

4.に挙げた基本的な参考文献、講義中に指示する参考文献、配布するプリント等をよく読むこと。

6. その他履修上の注意事項

講義は、順序立てて進めていくので、毎回、継続的に出席してほしい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--|
| 【第1回】 | ガイダンス:「環境経済学特講Ⅱ」の開講にあたって |
| 【第2回】 | 公害・環境問題の今日的様相と環境保全への3つの主要課題 |
| 【第3回】 | 自然保護問題、アメニティ保全問題からみた従来までの経済理論の意義と限界 |
| 【第4回】 | 自然保護問題、アメニティ保全問題への多様な理論的アプローチの可能性 |
| 【第5回】 | 環境保全への主要課題:自然保護のための経済理論①
ー保全すべき自然とは? 自然を保全するとはどういうことか?ー |
| 【第6回】 | 環境保全への主要課題:自然保護のための経済理論②
ー自然保護の思想と歩みの諸系譜(1)ー |
| 【第7回】 | 環境保全への主要課題:自然保護のための経済理論③
ー自然保護の思想と歩みの諸系譜(2)ー |
| 【第8回】 | 環境保全への主要課題:自然保護のための経済理論④
ー経済理論における自然の位置づけと価値評価ー |
| 【第9回】 | 環境保全への主要課題:自然保護のための経済理論⑤
ー自然の保全・管理のあり方と費用負担をめぐる問題ー |
| 【第10回】 | 環境保全への主要課題:アメニティ保全のための経済理論①
ーアメニティとは何か? アメニティがなぜ重要なのか?ー |
| 【第11回】 | 環境保全への主要課題:アメニティ保全のための経済理論②
ーアメニティ保全の思想と歩みの諸系譜(1)ー |
| 【第12回】 | 環境保全への主要課題:アメニティ保全のための経済理論③
ーアメニティ保全の思想と歩みの諸系譜(2)ー |
| 【第13回】 | 環境保全への主要課題:アメニティ保全のための経済理論④
ーアメニティ保全の理論と固有価値概念の意義ー |
| 【第14回】 | 環境保全型経済社会への課題と展望
ー“環境的豊かさ”をどう実現していくか?ー |
| 【第15回】 | 全体のまとめ |